

# Monthly Report

Vol.57 / 2011 Feb.

## 第5体育館 完成間近

建設中の第5体育館の外観を覆っていた足場やネットが外され、巨大施設の全容が見えてきました。東側側面には「仙台大学」の文字が見て取ることができます。完成まではあと1ヵ月となりました。待ち遠しい施設です。



### 目次

第5体育館 完成間近	1
学生相談室主催研修会 伊達PRO海外合宿	2
宮城県栄養改善学会 ジュニア・アスリート指導者研修会	3
短期留学プログラム 仙台大学高校会	4
中国国費留学生	5
修士論文最終発表会	6
DAN DAN DANCE & S PORTS 7th	7
学生・OBの活躍	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。  
Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 学生相談室主催研修会

### 「発達障害を抱えるまたは疑われる学生の理解と支援」

< 学生相談室より >

2月15日、A棟2F大会議室にて、宮城教育大学  
教職大学院教授・特別支援総合研究センター長  
せきくちひろひさ

である関口博久氏をお招きして、「発達障害を抱えるまたは疑われる学生の理解と支援」をテーマに教職員への研修会を開催し、学生含め教職員約40名の参加がありました。

今研修では、まず特別支援教育についての解説があり、現在どのように発達障害という言葉が使われているかなど基本的な説明がありました。その上で50人に1人程度は、発達障害を抱える、または診断は受けてなくても疑われる学生とのことでした。つまり「凄く特別なことではない」ということでした。

また架空事例3例を通し、実際にどのようなことで困っているかについての解説がありました。発達障害と言っても、一人一人抱えている問題は異なります。そのため発達障害の特徴を理解した上で、その学生が何に困っているかを知る必要があるとのことでした。さらに宮城教育大学内での、発達障害を抱えた学生への支援事例の紹介もありました。両親とのコミュニケーションの重要性、周囲の学生の理解や、本人の意思を何より大切にしたい関わりについての内容でした。

発達障害を抱える学生の支援においては、



理解がなければ、支援は出来ない。知識を深めることが重要。診断名でその人を見ないこと、人の性格特質の一つ。その時々困っていることに寄り添うこと。本人の希望を大切に。本人が気づくのを待つこと。などが重要になるとのことでした。このことは発達障害を抱える学生だけではなく、すべての学生支援に繋がるものと考えられました。学生一人一人を理解し、その時困っていることに寄り添い、本人の気づきを見守るような学生支援が、求められているのではないのでしょうか。

学生相談室主催の研修も、今年で3回目となりました。その時々にあった内容をと考えておりますので、取り上げて欲しいテーマがありましたら、是非ご指案下さい。

## 「伊達なSPORT PROJECT」海外合宿



「伊達なSPORT PROJECT」の選手がオーストリア・インスブルックで強化合宿を行っています。インスブルックは、このプロジェクトが目標しているユースオリンピック（2012年1月）の開催地です。実際のコースを体験することと、海外選手と共に練習する事で多くのことを学び取ることが今回の合宿の目的です。合宿は19日から26日で、現地での様子は「伊達なSPORT PROJECT」ホームページでご覧いただけます。

「伊達なSPORT PROJECT」アスリートブログ

<http://www.sport-project.jp/athleteblog/11-2/athleteblog11-2.html>

## 第45回宮城県栄養改善学会



2月19日(土)に(社)宮城県栄養士会は主催する「第46回宮城県栄養改善学会」がフォレスト仙台で開催され、本学からは津吉講師と高橋杏奈さん(運動栄養学科4年)が発表を行い、丹野准教授が司会を務められました。この学会は県内の栄養士が一堂に会し、日頃の研究成果の発表や意見交換・交流することにより資質の向上と栄養改善に寄与する事を目的に、毎年開催されているもので、約100名の参加がありました。

津吉講師の発表では「大学生アスリートに対する栄養サポート活動が選手に与える影響」と題して、栄養サポートの対象となっている運動部に所属する学生へのアンケート調査結果から、栄養サポート活動が選手の食生活や競技生活の一部に望ましい影響を与えていることを紹介し、今後の課題として居住形態や性別なども考慮した栄養サポート活動を実施していく必要があり、それらに対応したサポートプログラムを開発していきたいと話しました。聴講者からは「小学生・中学生への運動栄養のアプローチが必要」という声や、「子供向けパンフレットを作ってほしい」との大学への要望も出されました。

高橋さんの発表では「競技力向上に貢献するための栄養サポートのあり方に関する一考察」と題して、日頃の運動栄養サポート研究会の取組みを紹介したとともに、B・L・S部で行った栄養摂取状況が身体組成及び競技成績に与えた影響について調査した結果を報告しました。

## 「平成22年度 宮城県ジュニア・アスリート指導者研修会」開催

～宮城県体育協会・スポーツ情報マスメディア研究所連携事業～



2011年2月19(土)・20(日)の2日間、仙台大学を会場に宮城県ジュニア・アスリート指導者研修会が開催されました。研修会には、様々なスポーツで活躍する宮城県内の小中学生とその指導者、合わせて20名が参加しました。

この研修会のテーマは、「トップアスリートを目指すきっかけづくり」です。1日目は、仲間の大切さを認識し、協力することを目的とした体験的なプログラムや世界の同世代のアスリートの活動を知るプログラムを行いました。2日目



には、コミュニケーションの基礎となる伝え方や質問をすることを学ぶプログラムや食育プログラムとして調理実習が行われました。最後に宮城県のスポーツの未来を考えるためにディスカッションが行われ、「競技力だけでなく、アスリートの幹となる部分を育てたい」「研修会で学んだことを発信し、宮城県全体で情報を共有したい」など、多くの意見が参加者全員から出されました。

## 台東大学、カヤーニ応用科学大学へ短期留学



朴澤学長に出発の報告(2月9日)

学生4名が短期留学プログラムを利用して、本学が国際交流協定を結んでいる台東大学（台湾）とカヤーニ応用科学大学（フィンランド）に短期留学します。台東大学には永井希（体育学科3年）が2月28日から3月28日、カヤーニ応用科学大学には中津範洋（大学院1年）、恒田三加（運動栄養学科2年）、狩野良介（体育学科1年）の3名が2月21～3月15日まで滞在します。留学中は講義に参加するとともに、学生との交流を深める予定です。4名とともに国際交流と語学への興味を持っており、一回り成長して帰ってくることでしょう。

### 永井 希

平成21年9月の日本大学生訪中団員として中国にわたってから外国語に興味を持ち、独学で勉強してきました。今回の留学では自分の語学力がどれだけ通用するかを試し、更に向上させてきたいと思っています。

### 中津範洋

世界中の注目を集めているフィンランド教育と、その社会の側面を直接肌で感じてみたいと思ったのが留学を決めた大きな理由です。フィンランドで教えられている教育学を学び、グローバル化が進む中での教育の在り方を探りたいと思います。

### 恒田三加

英語が好きで、今回の機会を活用したいと思い、参加を決めました。また、フィンランドではフロアボールが授業に取り入れられているほど盛んで、世界選手権では常に上位にいる強豪国です。私はフロアボール同好会に所属しているので、どのような練習に取り組んでいるのか楽しみです。

### 狩野良介

カヤーニ応用科学大学には高橋悠さん（スボ情3年）が長期留学中なので、心強いです。私も留学中は積極的にフィンランドの学生と交流を持ち、語学力を伸ばすように努めたいと思います。フィンランドがどういう国なのか、また、海外からは日本がどう見えるのか楽しみです。

## 仙台大学高校会 総会・懇親会



2月19日（土）にホテル白萩(仙台市)において、「仙台大学高校会」の総会・懇親会が開催されました。この「仙台大学高校会」は宮城県内の高校に勤務する本学卒業生が会員となり、高校における体育活動の健全な普及発展と、母

校である仙台大学の発展並びに教職を目指す後輩の育成に寄与するために組織されています。

当日は高校会から36名と本学から教職員18名が出席し、今年3月で退職される遊佐 悟先生（3回生 / 鶴谷特別支援学校）に対して会長の滝川雅啓先生（4回生 / 石巻支援学校）より花束が贈呈されるなど、終始和やかな雰囲気の中で会は進行しました。朴澤学長はじめ本学関係者の挨拶では、本学の取組みの紹介や同窓生教員推薦への協力が確認されました。最後は本学名誉教授の熊坂繁太郎先生の万歳三唱により大学と同窓生教員との連携強化を確認し、盛会裏に終了しました。

## 中国に国費留学中の日野さん、金井さん、安部さんが一時帰国

東北師範大学に国費留学中の日野晃希さんと金井弘順さん、上海体育学院の安部孝太郎さんが一時帰国し、元気な姿を見せてくれました。

ひのこうき

日野晃希さん（東北師範大学大学院）



仙台大学大学院を3月で修了し、東北師範大学大学院を7月で修了する予定です。3年目となる今年は中国文化にも中国語もマスターし、生活するうえで不自由することもなく、中国国内を旅行して歴史や風土に触れ、楽しんでます。

東北師範大学は北京や上海のように留学生が大勢いないので、中国人の中でどっぷり中国語を学べる環境にあり、実際、北京や上海の留学生が、母国語で生活できる環境がありすぎて中国語を使う機会が少ないので、長春に転入してくる場合もあるほど。留学生のための中国語のレベルを分けてシステムが整っているところは良いので是非、東北師範大学留学をお奨めしたい。

かないひろのぶ

金井弘順さん（東北師範大学）



現在3年で残り1年半。9月で日野さんが修了するので、仙台大学からの東北師範大学留学者は2人になってしまうので、向井智さんと頑張っていきたいと思っています。

仙台大学の諸先生方には昨年

10月から遠隔授業をしていただき、たいへんお世話になっています。栄養士の単位と教職科目、一般科目を私一人のために授業して下さるので、たいへん有り難いです。

仙台大学の同級生は今年3月で卒業を迎えるので、卒業式まで日本に残り、皆を見送ってから中国に戻ります。

あべこうたろう

安部孝太郎さん（上海体育学院大学院）



中国滞在も2年目で、中国語にはだいぶ慣れ、上海体育学院に国費留学している3人で切磋琢磨して頑張っています。

南京大学に留学中の日本人学生が中心となり、中国のハンセン病患者の隔離施設「ハンセン病村」でのボランティア活動をしている。ハンセン病は感染力・発病力は非常に低く、隔離する必要はない病気であることは知られているが、かつて30万人を超すハンセン病患者を指摘された中国では、未だに全国で600以上の「ハンセン病村」が存在している。私は同じく上海体育学院に留学中の伴 和暁さんとともに南京にある村でのボランティア活動に加わり、これまで3回、長い時で8日間にわたって滞在して交流を行い、道路舗装や野菜の収穫の手伝いを行いました。この活動は今後も続けていこうと思っています。

## 女子サッカー部監督の黒澤尚新助手が2大会連続でユニバーシアドGKコーチに就任



2011年8月に開催される第26回夏季ユニバーシアド深圳大会の日本女子サッ

くろさわたかし

カー代表のゴールキーパー（以下=GK）コーチに黒澤尚新助手が就任しました。ユニバーシアドGKコーチを務めるのは2年前のベアグラード大会に続いて2度目です。前大会では決勝戦で韓国代表に敗戦を喫しているだけに「チーム目標は金メダル獲得。私の役割はゴールキーパーを中心とした守備面の強化を任されているので、今後の代表合宿で強化に励んでいきたい」と話しています。

## 平成22年度 修士論文最終発表会



2月15日(火)E301教室において平成22年度修士論文最終発表会が開催されました。発表者はいずれも2年コース終了予定者で、現在北海道美深町職員の前田研吾さん(元スポーツ情報マスメディア研究員)や、中国国費留学中の日野晃希さんも一時帰国しこれまでの研究の成果を発表しました。今年度の発表者は以下表のとおりです。(写真は石川琢磨さん)

また、前大学院研究科長の佐藤佑名誉教授にもおいでいただき最後までそれぞれの院生の研究成果発表に耳を傾けて下さいました。大学院の先生方からも活発な質疑がなされ、丸山研究科長からの総評をいただき今年度の発表会が終了しました。

### 発表者(2年コース)

宮本 学	日本における国レベルのスポーツ政策形成過程に関する研究
前田 研吾	子どものスポーツ活動の促進に向けたスポーツ振興の検証と課題 北海道美深町における子どもを対象としたスポーツ振興の取組み指導から
唐 志豪	中国におけるスポーツ・ニュースウェブサイトの発展過程と利用者の意識に関する一考察
及川 直人	体育における「楽しさ」の取り扱い方の変遷に関する研究
日野 晃希	生涯スポーツを志向する体育学習における「手段的/目的的価値」の取り扱いに関する研究 ～「楽しい体育」論を手がかりとして～
安達 崇晃	呼吸筋ウォームアップが自転車運動におけるパフォーマンスと呼吸循環応答に及ぼす影響
祁 聖傑	バスケットボール、サッカーおよび陸上競技短距離選手の足関節筋力 および関節可動域から見た競技特性
渡邊 斌	S高校男子バスケットボール選手の体力特性と運動強度
難波 昇吾	低酸素気吸入がその後の呼吸循環器系に及ぼす影響
黄 聡	低酸素トレーニングの個人差
南條 佑太	中高一貫教育校の現状と課題 - 中等教育学校、併設型中高一貫教育校を対象に -
大道 有起	特別支援学校における自然体験活動の阻害要因 - 障がい種別に着目して -
佐藤佳代子	『保健だより』に関する一考察 ～雑誌『健康教室』に掲載された機能の推移と1987・2010年の製作実態に関する比較～
馬 冬梅	ネット・コミュニティーマーケティングの分析 - ナイキとレノボの対策を事例に -
高野 洋平	受傷した選手のソーシャル・サポートと受傷時の心理状態の認知構造との関連について
平良 拓也	食事摂取タイミングおよび栄養バランスが食事中および食事後のエネルギー代謝に及ぼす影響
高橋 大輔	コンプレッションウェアの着用が運動及び休息時に与える影響について
石川 卓磨	テーピングが膝前十字靭帯再建術後の運動機能に及ぼす影響に関する検討
別府 晃至	円皮鍼刺激がボ・ト選手の長時間のローイングパフォーマンスに及ぼす影響について
畑中 佑介	野球の投球運動における映像自己観察に伴う指導の事例研究 - 自己観察能力およびパフォーマンスへの影響 -

## DAN DAN DANCE & SPORTS 7th



2011年1月29日（土）今回で7回目となる「DAN DAN DANCE & SPORTS 7th」が、大河原町えぞこホール（仙南芸術文化センター）において、えぞこ芸術のまち創造実行委員会の共催で開催されました。

本会の実行委員メンバーは、本学の在学学生および卒業生で構成され在学学生は篠田研究室のゼミ生とブレイキン同好会、そしてダンス（講義）を受講した学生に加え、丹羽研究室の新体操部員、男子新体操同好会ほか、ボランティアも合わせると総勢41名で本会の運営を支えました。

例年ご参加いただく団体のほかに地域の方々にも参加を呼びかけ、当日は約400名を超える方々

にご来場をいただきました。仙南地区や仙台を拠点に活動するダンスグループなど全30組が出演し日頃のパフォーマンスを披露しました。本学からは新体操競技部、体操競技部、ブレイキン同好会、チアリーディングチームほか賛助作品が多数出演し、華麗、かつパワフルな演技で会場を魅了しました。

ご出演いただいた皆様、そしてご来場いただきました皆様、本会にご参加いただく為に多くの時間を割いていただきましたこと心より感謝申し上げます。有難うございました。

来年度は、2012年1月28日（土）同会場で開催いたします。奮ってご参加ください。

### 湧くわくダンス

コーチング実習（ダンス）の一部としても開催されている「湧くわくダンス」は、DAN DAN DANCE & Sportsの舞台上、一般の方にも気軽に参加していただき、学生が振り付けや指導までを担当する参加型ダンス企画です。今年は、幼稚園児～70代までの幅広い年齢層で構成された46名が集まり「7th湧くわくダンスチーム」が結成されました。12月2日から毎週2時間計7回の練習・リハーサルを経て「DAN DAN DANCE」の本番で無事成果を発表することができました。



浜崎あゆみ「SUN RISE」の曲にあわせて

### 振り付けを担当した緑川 隆さん （体育学科3年）



今年は小さい子も多かったので、楽しめる音楽を選曲しました。振り付けでは、盛り上がるところは弾け、静かなところには静かにと動静の曲調や歌詞の言葉の意味を表現し、いろいろな動きを組み合わせで振り付けました。完成後、イメージが伝わっているか篠田先生をはじめブレイキン同好会のメンバーにも確認して、より楽しく、より分かり易い内容に仕上げたつもりです。

練習日の初回は、集まってくれたメンバー全員の交流を図ることをメインにし学生側から積極的にかかわっていきこうと学生全員で心がけました。その甲斐あって、メンバー同士が本番までよいチームワークで練習を進めていくことができ、毎回一生懸命振り付けを覚えていく様子や休憩中にも交流の輪が見られ、教える側として、メンバーの成長がとても嬉しいことでした。本番は真剣そのもので一番よい演技ができたのではないかと思います。

これまで、泉区の児童センターで「ブレイクダンスを教えてほしい」との依頼で小学生を教えた経験があったこともあり、指導者をめざす自分にとって子どもと接する場をいくつも踏めたことはとても貴重な経験となりました。イベントやボランティアなど、要請があったら積極的に参加し、様々な経験を後輩へもつなげていけたらと思っています。

## 学生が鬼首小学校でスキーサポート



学生ボランティア有志が1月28日、2月4日の両日、大崎市立鬼首小学校（村石好男校長：本学11期生）の児童40名に対してスキー指導を行いました。豪雪地帯にある鬼首小学校では全校を挙げてスキー活動（クロスカントリー、アルペン）に力を入れて取り組んでおり、今回、指導の充実を図ろうと、体育大学である本学に支援の要請があり、実現したものです。

スキー実習はオニコウベスキー場でクロスカントリースキーが行われ、学生たちは「元気に頑張ろう」と声を掛けながらコースを滑り、上達を促しました。今回、ボランティアを行った学生の中には教員志望や4月から小学校教諭となる学生も複数名おり、「指導の現場を経験で

き、子供たちから元気をもらった」という声も聞かれ、小学生との交流が楽しかったようです。4日の指導終了後には感謝の意をこめて、村石好男校長よりボランティア活動証明書が学生一人ひとりに手渡されました。同校への支援は今後も引き続き行っていく予定です。

### 学生ボランティア

しむら かずや  
志村 和哉（体育4年）  
えんどう けんた  
遠藤 健太（体育4年）  
たくさり ひかる  
田鎖 光（体育4年）  
ほし しょうご  
星 昭伍（健福4年）  
いとう りょうへい  
伊藤 良平（体育3年）



## 奥埜博亮が3年連続でJFA・Jリーグ特別指定選手に承認



おくのひろあき  
奥埜博亮さん（体育学科3年）が3年連続で大学に在籍しながらJリーグの試合に出場できる「JFA・Jリーグ特別指定選手」に承認され、2011シーズンもベガルタ仙台の一員としてプレーすることが決まりました。

奥埜さんは明成高校・ベガルタ仙台ユース出身。中学から各年代の選抜チームでプレーし、2002年のU-13日本選抜、2005年のU-16日本代表などに出場しています。大学でも中心選手として活躍し、今年8月に開催される「第26回夏季ユニバーシアード深圳大会」の候補選手が集まる全日本学生選抜にも名を連ねています。奥埜さんの益々の活躍が望まれます。

なお、奥埜さんが全日本学生選抜として出場する3月4 - 6日のデンソーカップ（会場：J-GREEN堺）には「北海道・東北選抜チーム」として平野洋輔、木内瑛、蜂須賀孝治、黒田涼太、森田光哉の5名が出場しますので、是非ご注目ください。

### ベガルタ仙台ホームページ

「仙台大学・奥埜博亮選手 2011年JFA・Jリーグ特別指定選手として承認のお知らせ」

[http://www.vegalta.co.jp/contents/news/press\\_release/2011/02/-2011jfaf.html](http://www.vegalta.co.jp/contents/news/press_release/2011/02/-2011jfaf.html)



## 体操のスタンフォード・オープン2011に4名が出場



日本体操協会HPより

日本体操協会のU-21強化選手に指定されている佐藤亘さん（体育3年）、宗像陸さん（体育3年）、石原大さん（体育3年）、富澤祐太さん（体育2年）の4名が、2月19日に米国サンフランシスコで開催されるスタンフォード・オープンにU-21日本代表として出場しました。宗像さんが跳馬で最高得点（16.300）をマークするなど各々が持ち味を存分に発揮し、日本チームの優勝に貢献しました。

得点の詳細は日本体操協会ホームページでご確認ください。

日本体操協会ホームページ

<http://www.jpn-gym.or.jp/artistic/2010/result/pdf/11stan.pdf>

### U-21強化指定選手

いしはら ひろし

石原 大（体育学科3年）

むなかた りく

宗像 陸（体育学科3年）

さとう わたる

佐藤 亘（体育学科3年）

とみざわゆうた

富澤祐太（体育学科2年）

## 船山弘希が全日本学生スノーボード選手権大会2連覇



写真：スクール校長のブログより  
手前が船山弘希さん

1月29、30日に長野県白樺湖ロイヤルヒルスキー場を会場に第23回全日本学生スノーボード選手権大会が開催され、船山弘希さん（健康福祉学科3年/スノーボード同好会）がジャイアントスラローム（GS）とスラローム（SL）の2種目で2連覇を果たしました。

船山さんは塩釜高校（宮城県）出身。4歳から父親の奨めでスノーボードをはじめ、スラロームの虜に。その才能は直ぐに花開き、高校3年時に全日本ジュニア選手権（18歳以下）で優勝す

るなど頭角を現した。そして、幼少の頃から憧れの存在であった鶴岡剣太郎選手（平成8年度卒/トリノ冬季五輪代表選手）の母校である本学に進学した。

プロスノーボーダーを目指し、週末は日本スノーボード協会（JSBA）の公認競技会を転戦している。2月に行われた全日本の予選会第29回全日本スノーボード選手権大会東北地区予選デュアルスラロームレース」を優勝、ポイント獲得のために遠征した「関東地区予選デュアルスラロームレース」でも優勝した。ポイントランキングは2月18日現在で6位としており、「プロ資格の条件であるシーズンランキング8位以内に入るために3月に開催される全日本選手権で結果を残す」と意気込んでいる。これからも船山さんの滑りに注目したい。



ポイントランキング（2/18現在）日本スノーボード協会HP

[http://www.jsba.or.jp/rankings\\_all/2010/tour/tour\\_sl\\_m.pdf](http://www.jsba.or.jp/rankings_all/2010/tour/tour_sl_m.pdf)

## 青年海外協力隊のOG・齋藤まりさんからの便り

本学卒業後、JICAの青年海外協力隊として2年間、マレーシアの施設を巡回してニュースポーツやレクリエーション指導・提供を行っているOGの齋藤まりさん（平成21年度運動栄養学科卒）から小池教授に届いたメールを紹介しします。（本人了承済み）



~~~~~  
マレーシアに来て8カ月が経ち、活動の方にももだいが慣れ、素晴らしい環境で日々学ぶことができる生活に、とても感謝しています。日本を出てチャレンジして本当に良かったと思えるほど毎日、多くのことを吸収し、成長できていると感じています。時々、ワーカーとのコミュニケーション不足で悩むこともあります。とても良い環境で「悩めるなんて幸せなことだ！」と気持ちを切り替えて頑張っています。残る任期は約1年ですが、私が帰国した後も継続して、地元の人たちで行っていきけるようなアプローチをしていきたいと考えています。学生のみなさんもそれぞれの夢に向かって諦めず、チャレンジしてもらいたいです。

卒業式シーズンで小池先生はお忙しい時期かと思いますが、くれぐれもお体にお気をつけてください。  
齋藤まり  
（一部抜粋）  
~~~~~

## JICA「世界の笑顔のために」プログラム活動に御礼状

本学では学内で不要となった物品（主にスポーツ用品）を学生が主体となって回収し、JICAを通して開発途上国の子どもたちに届け、役立てていただいております。本学が提供した物品が届けられたミクロネシア連邦から御礼状が届きましたので一部ご紹介します。



### 仙台大学学生支援センター 御中

私はウトエセンターポイントの代表として、この素晴らしい贈り物をくださった皆様やその周りの協力的な日本の方々へ深い感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございます。

ウトエセンターポイントは、政府に属さず利益を追求しない新しい組織で、ミクロネシア連邦コスラエ州ウトエ地区にあり、自然環境やその周りのエコシステムの保全、伝統的な習慣や文化の保護、またスポーツの普及やレクリエーションプロジェクトの促進などを行っています。

皆様から寄贈いただいた野球道具は、現在私たちの地域の野球チームによって行われている健康促進プロジェクトの大きな一助となると共に、これから野球を始める子どもたちに対して道具の有効活用についてアドバイスを行うことができます。このすばらしい寄贈に対してお礼を申し上げる言葉が見つかりません。

是非とも周りの方々の前でこの手紙をお読みいただき、どれほど私たちが感謝し喜んでいるかをお伝えくだされば幸いです。

この寄贈により、皆が手を取り合い「世界の笑顔のために」新しい友好関係を築いていくことができると私は信じています。

ウトエセンターポイント代表  
Anderson Tilfas